

医局会 抄録

2011.7

医局研究会

当院における心臓手術

外科 矢鋪 憲功

心臓外科で対象となる疾患としては、冠動脈バイパスなどを行う虚血性疾患、弁置換・弁形成を行う弁膜症、その他に先天性心疾患、胸部大動脈瘤・解離、その他（不整脈、腫瘍など）があります。

当院で一番行われているのは冠動脈バイパス術(CABG)です。以前は心臓全体を止めて行っていました。最近では手術器具の発展などに伴い、吻合部位だけを止めて行うOff-pump CABG(OPCAB)と鳴りました。クラフトとしては内胸動脈、大伏在静脈、橈骨動脈、胃大網動脈などがあり、これを新しい血液の導管として冠動脈に吻合するわけです。

手術による死亡率を予測するものとしてはヨーロッパの手術データベースを基に作成されたEuroScoreがあります。一般の方でもホームページにアクセスして年齢や並存症、全身状態などを入力すればその死亡率を予測できます。

心臓の手術件数に関しては胸部外科学会の調査によると全国で58,000件(2008年)あり、最近は弁膜症が増加傾向と鳴っています。一方虚血性心疾患に対する手術はカテーテル治療の進歩に伴い減少傾向となっています。

近隣の心臓血管施設としては砺波総合、高岡市民、氷見市民、そして当院とあるわけですが、心臓手術が可能なのは氷見市民と当院のみです。しかし呉西地区は東は富山大学、西は金沢大学に挟まれて、患者さん方はこのいずれかの心臓外科施設で手術を行うことが多く、地元で手術を行う機会を逸しやすいことが問題です。

現在富山県の心臓血管外科専門医認定機構認定修練施設は富山大学、富山県中、富山日赤の3件ですが、当院がこの資格を取得することによって（ここ1、2年のうちに取得可能）呉西地区の方々が当院で安心して手術を受けることができるようになるのではないかと考えております。

